

2014年1月14日 3面

業績目標を上方修正

オオバが中期計画見直し

オオバは10日、12年6月の連結業績で売上高147億7千万円(当初計画126億7千万円)、営業利益7億7千万円(3億7千万円)などの中期経営計画を見直した。公共投資関連の事業環境が変化したことに加え、2020年東京五輪の開催決定なども踏まえて数値目標を上方修正。再生可能エネルギーや農業などの分野の事業拡大、海外展開の加速にも取り組み、16年5月期は、震災復興と国土強靱

の連結業績で売上高147億7千万円(当初計画126億7千万円)、営業利益7億7千万円(3億7千万円)などの中期経営計画を見直した。公共投資関連の事業環境が変化したことに加え、2020年東京五輪の開催決定なども踏まえて数値目標を上方修正。再生可能エネルギーや農業などの分野の事業拡大、海外展開の加速にも取り組み、16年5月期は、震災復興と国土強靱

の連結業績で売上高147億7千万円(当初計画126億7千万円)、営業利益7億7千万円(3億7千万円)などの中期経営計画を見直した。公共投資関連の事業環境が変化したことに加え、2020年東京五輪の開催決定なども踏まえて数値目標を上方修正。再生可能エネルギーや農業などの分野の事業拡大、海外展開の加速にも取り組み、16年5月期は、震災復興と国土強靱

新事業領域の開拓にも注力する。東京五輪関連は事業開拓に戦略的、組織的に取り組むほか、五輪後を見据えた街づくりプランを関係者に提案する。公共施設の維持管理も有望分野の一つに位置付ける。自治体が保有する施設やインフラを総合的に管理しながら都市のリノベーションを進めるプランを念頭に、提案活動を強化する。

推進する具体的な施策には、▽モビルマップピングシステム(MMS)やGISを駆使した技術

提案の強化▽環境技術を用いた街づくり、大規模施設跡地や空地の利用転換業務の展開▽防災・減災コンサルの推進▽情報通信技術(ICT)を活用した生産性向上▽CM業務の拡大と専門技術力の強化などを列挙した。まちづくり業務での空間情報活用はパソコンなどの協業を検討する。

海外はアジア諸国や新興国の街づくり市場への進出を図るため、東南アジアや中東での情報収集と拠点新設を進める。

16年5月期の連結業績

目標は▽売上高147億7千万円。売上高の内訳はコンクリート部門が16億5000万円としている。

▽営業利益7億7千万円。経常利益7億7千万円、事業ソリューション部門が130億5000万円、事業ソリューション部門が16億5000万円としている。